

# HOPES

ホープス セカンド

2nd

恵美さんは3人姉妹。「もう一度べごやつちえんだあ…」とずっと言い続けていた父・義孝さんの思いに伝えて「数年のうちには私が村に戻って、牛の仕事を手伝おう」と心に決めていました。

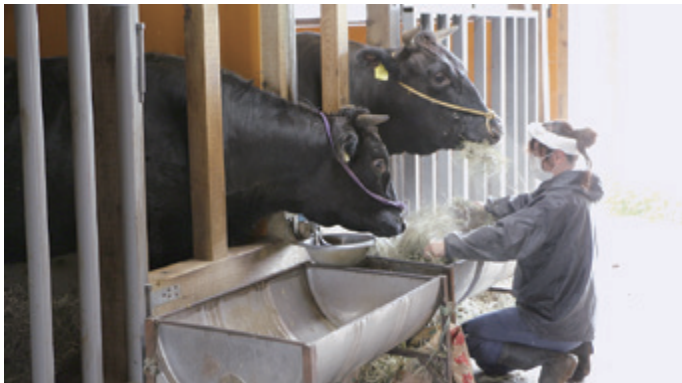
そしてその日は昨年1月、突然に訪れました。義孝さんが亡くなったのです。恵美さんは、全ての予定を繰り上げ、教職を辞して故郷に戻って来ました。

## 牛農家として父の思いをつなぎたい

細川 恵美<sup>めぐみ</sup>さん（上飯樋）



大阪府で小学校の教員をしていた恵美さん（写真右）。昨年1月に父を亡くし、実家の牛農家を継ぎました。母・恵美子さん（写真左）、娘の瑠菜（るな）さんも恵美さんの挑戦を支えます。



清掃の行き届いた牛舎。「牛にストレスがかからないよう、なるべくきれいにしています」。大小2棟の牛舎に11頭。恵美さんの手から草を食べる牛の様子もとても穏やかです。

「本当は父からいろいろ教わりたかった」。恵美さんは、親戚や義孝さんの友人の応援、家族の励まし、さらには同業の先輩達との出会いに支えられ、一歩一歩、和牛繁殖農家の道を歩き始めました。

小さな頃から手伝ってきたとはいえ、一から自分でやるのは初めてです。牛の様子に心配になり、牛舎にテントを張って泊まり込んだこともあるそう。

そして、今年3月には人工授精師の資格を取得。間もなく初めての出産で、仔牛を取り上げます。「これからお産が続くので、また新たな挑戦です」。

そんな挑戦だらけの日々も、恵美さんは笑顔で、どこか楽しげ。「教員時代は時間に追われる毎日でした。飯館育ちの私は、のんびりできるのがうれしい。飯館村にいやされています」。

### 〈編集後記〉

● 新型コロナウイルス感染症対策による外出自粛等が続き、人と人が直接会って、話すことがいかに大切で楽しいことだったのかを実感しました。新しい生活様式を取り入れながらも、これまで以上に人とのつながり、思いやりを忘れずに過ごしていきたいです。（木幡）

● 自宅で過ごす連休に、大片付けに着手。母の遺品を見返すと私が小さい頃の写真や私の書いた文章がいろいろ出てきました。笑ったり赤面したり。あの日に戻って「後で読むと結構恥ずかしいよ」と教えたくなるものも。どこにも行けなかったけれど、記憶を旅する（そして反省する）大事な時間になりました。（星）



飯館村は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。